

学長挨拶 ボランティアセンターの活躍を期待して

2015年はボランティアセンターが誕生して18年目の年になります。1998年に横浜キャンパスに設立されたセンターは、その後2001年には白金キャンパスにも設置されました。それに伴い、白金と横浜の両キャンパスに専任のコーディネーターが配置され、コーディネーターの活躍とセンター長の熱意と学生たちの積極的な参加という理想的な形でボランティアセンターは発展してきました。この間、2003年には文部科学省の第1回目の「特色ある教育支援プログラム」に採択され、マスコミでも大きく取り上げられました。と同時に、他大学のボランティア活動の活性化にも少なからず影響を与えたのではないかと思います。

また、2001年度から2013年度まで実施したソニーマーケティング社主催の「学生ボランティアフェンド」の事務局を本学のボランティアセンターが務め、全国の大学のボランティア団体からの応募を本学が取りまとめ、審査委員に本学の理事長と副学長が参加してきました。

海外での活動といえば、2004年のスマトラ沖地震の際には、本学の協定校であるタイのタマサート大学の協力を得て、本学の学生とコーディネーターが現地でボランティア活動をするという、海外ボランティア活動の最初の試みがおこなわれました。

そして、2014年2月にはボランティアセンターと国際交流センターの協同で、トルコ親善ボランティアミッションを実施しました。14名の学生の参加を得たこのミッションでは、トルコの2つの大学での学生交流と、トルコ最大のボランティア団体であるキムセヨクムの協力を得て、シリア難民へのボランティア活動がおこなわれました。参加した学生の満足度は大きく、今後のボランティアセンターの活動領域拡大の可能性を見出だすことができたのではないかと思います。

話は前後しますが、2013年4月に日本赤十字社とともにボランティア活動に関わる共同宣言を発表しました。国際赤十字社と明治学院のそれぞれの創立150周年がぴったり重なりあい、これからも一層ボランティア活動を推進することをともに誓ったことにより、ボランティアセンターの中に明学レッドクロスという赤十字と協働する学生主体のグループが生まれることとなりました。

また去年は、学生が中心になって制作した「吉里吉里カルタ」が文化庁の支援を受けることが決まり、これも大変嬉しい出来事でした。被災地復興の支援には文化遺産の保存という面での貢献もあることを改めて教えられました。言葉の保存に関わってこられた教職員、学生の活動に敬意を表します。

今年度に行進中のこととしては、「明治学院大学 教育連携・ボランティア・サティフィケート・プログラム」があります。指定科目を履修し、実際の活動に積極的に参加した学生に、ボランティアに関わる修了証を出すということで、これが学生時代の活動として社会的にも認められることを願っています。

去年の10月には大学基準協会の認証評価委員による実地調査がおこなわれました。そして12月下旬に評価報告書案が送付され、大学全体としても「適合」との評価を受けましたが、同報告書では、ボラ

ンティアセンターの活動が長所であると認めていただきました。これは大学として誇るべきことで、これまで積み重ねてきたボランティアセンターの活動が第三者評価機関からも優れていると位置づけられたのです。これは自画自賛の活動ではないということであり、社会的な評価も高いということです。

今後のボランティアセンターのさらなる発展を期待しています。

2016年3月

学長 鶴殿博喜

ボランティアセンター長挨拶

ボランティア実践と大学教育での学びとの連携に向けて： ネクストステップへの準備

明治学院大学ボランティアセンターは全国の大学に先駆けて1998年に設立され、学生を主体としたボランティア実践を積み重ね、内外地域の多様な社会問題に取り組み、新聞・テレビ等メディアでも取り上げられる活動に発展しています。

2015年度においては、6学部約150名の学生がボランティアセンターの学生メンバーとして、プログラムの企画・運営に関わり、次のような多様な分野にわたる多様なプログラムを提供してきました。

①1日社会貢献プログラムを提供する1 Day for Others、②東日本大震災復興支援プロジェクト、③海外の社会課題に取り組む海外プログラム事業部、④日本赤十字社との協働による明学レッドクロス、⑤白金・横浜キャンパス近隣の活動に関わる地域活動、⑥多様な企画に挑戦するプロジェクト、などです。

ボランティア実践プログラムについては、2011年度に1日社会貢献プログラムの1 Day for Othersが開始され、ボランティア実践プログラムの体系化が本格始動しました。このプログラムの参加者は2011年度245名から2015年度には708名まで増加し、本学に入学した学生にはボランティア活動を実践してみたいと希望する割合が高いことを受けて、このプロジェクトを通じて、より多くの明学生にボランティア活動の機会を提供できるようになりました。

東日本大震災復興支援プロジェクトは、2015年度末（2016年3月）に震災から5年の歩みを振り返る会を開催し、支援に関わる学生が集まり、岩手県大槌町吉里吉里の活動、陸前高田市の活動、宮城県気仙沼市の活動について、これまでの歩みの成果と課題・これからの支援のあり方について、活発な議論が交わされました。

ボランティア実践プログラムの体系化に続いて、ボランティア実践と大学の教育との連携化の検討が2014年度・2015年度においておこなわれ、来年度2016年度から、学部・学科および教養教育センターなど、大学教育での学びとの連携を図る「明治学院大学 教育連携・ボランティア・サティフィケート・プログラム」を導入します。このプログラムは教育理念“Do for Others”を具現化するものと位置づけられ、ボランティアを実践する学生が専門の教育で学んだことを実践に生かすとともに、実践で学んだことから専門での学びを深めることを目指しています。大学の授業で学ぶ理論とボランティア実践を融合するプログラムは初の試みであり、他大学においても、全学の既存科目とボランティア実践の融合はあまり例を見ないものです。

本学ボランティアセンターは、2016年度から、ボランティア実践と大学教育との連携という新たな体系的プログラムの開始へと、ネクストステップに進みます。

2016年3月

ボランティアセンター長 西村万里子